

病院・病床機能の分化・連携に関する課題（医療機能の分化・連携、確保）に対する施策について【置賜】

現状と課題		施策の方向性
機能 分化 ・ 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴い、今後、入院患者の総数は減少することが推計されている。入院患者数が多い新生物（悪性新生物）による入院患者も減少することが推計されている。 ・人口減少が大きい地域においては、現在においても、既に、入院患者が減少し、病床の利用が低迷している状況にある。 ・また、後期高齢者の増に伴い、呼吸器系疾患（肺炎）、循環器系疾患（脳血管疾患）、骨折による入院患者が増加する一方、妊娠、分娩及び産じょくによる入院患者は減少することが推計されている。 ・現在の病床数と推計による必要病床数を比較すると急性期が超過、回復期が不足の状況にあり、将来の医療需要に対応する体制が必要である。 	<p>○ 医療機関の機能分化・連携の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床機能の分化による役割分担の促進 (急性期・回復期・慢性期機能の分化・連携) ・疾病等による役割分担の促進 (緊急を要しない急性期機能の村山圏域との連携、置賜圏域内での病床集約化) ・回復期機能など不足が見込まれる病床への転換の促進 (病床機能転換に係る病棟・設備の整備を支援) <p>○ 地域における連携を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携パスの普及・拡充 ・地域医療情報ネットワークの活用促進 ・新たな医療法人制度（地域医療連携推進法人）を含めた病院機能の再編の検討

現状と課題	施策の方向性
<p data-bbox="181 762 219 831">確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域での初期救急医療体制の整備が進められてきたが、依然として二次・三次救急医療機関を受診する患者数が多く、受入医療機関への負担が大きい。 ・緊急の事態が生じた際、迅速に適切な医療を受けられるよう、広域搬送体制を含めた救急搬送体制の構築する必要がある。 ・診療所の産婦人科医師の高齢化が進むなか、分娩の取扱い医療機関が減少しており、将来的にも分娩施設を確保していく必要がある。 	<p data-bbox="1003 300 1742 336">○ <u>救急医療等の地域に必要な医療提供体制の確保</u></p> <p data-bbox="1077 368 1240 405">【救急医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者が症状に応じた適切な医療を受けられる体制の構築（適正受診の普及啓発、休日・夜間診療所の機能強化、救急電話相談の活用推進 など） ・救急医療に関わる医療従事者を確保・育成（医師、看護師、救急救命士など） ・医療機関と消防機関の連携や医療機関相互の連携（メディカルコントロール体制の充実など） <p data-bbox="1077 852 1272 888">【周産期医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療従事者の人材確保と育成（医師、助産師など） ・村山圏域の三次周産期医療機関との連携体制の強化 <p data-bbox="1077 1064 1429 1101">【透析医療、へき地医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における透析医療の維持確保 ・へき地等の医療を提供する体制の確保（総合診療医をはじめとする医師の確保、遠隔医療の活用など） <p data-bbox="1973 1319 2040 1356">など</p>